

市町村審査会委員研修

～市町村審査会運営と委員の基本姿勢～



湘南精神保健福祉士事務所

長 見 英 知

市町村審査会とは…

**障害の事実を確認する過程を通して、
当事者、家族、支援者、事務局、審査
委員が生活のしづらさを確認し、力を
合わせてより良い生活の基礎を構築し
ていく取り組み。**



良い審査のためのチェックポイント ～医師意見書編～

- ・ 残念ながら…医師意見書が古いことがあるので注意！
- ・ 「専門が違うので…」とほとんど未記入で提出されてくる医師意見書があるので、気になるところは事前に事務局の方に調べておいてもらうこと！
- ・ 意見書の「3. 行動及び精神等の状態に関する意見」の「(1)行動上の障害」と調査内容に差がある事がよくあるので、どちらが正しいか確認してみる！
- ・ 程度「ない・軽・中・重」「1・2・3・4・5・6」などの記載を「中～重」「2～3」といった形で記載されることが度々あるが、重い方の判断でとって良いと思う！（主治医の気持ちに寄り添う！）

良い審査のためのチェックポイント

～調査票編～

- ・ まずは「概況調査票」「サービスの利用状況票」で生活の全体像をイメージする！
- ・ 自分なりの各支援区分の状態像のイメージを持っていると捉えやすい！
- ・ 想像遅しく、調査票の記載内容が正しいのか？をチェックし、生活障害の程度を積み上げていくようにする。
- ・ 「一人暮らしをしたら」を想定してサービスの必要性を考える！
- ・ ちょっとでも支援が必要なら要支援と考える！
- ・ 意見書の「3. 行動及び精神等の状態に関する意見」の「(5)てんかん」にチェックが入っているが、調査票に記載が漏れていることがよくあるので確認！
- ・ 手書きの意見書だと、事務局が読み間違えていることがあるので、その点もチェックする！
- ・ 一次判定結果が正しく出ているのか判断するためにも、先の各支援区分毎の状態像と比較！どの辺が異なるのか特記事項を再チェック！
- ・ 各委員の専門性を尊重し、積極的に意見交換！皆で作り上げるように！

(あくまでも個人的なものです...) 各区分の状態像のイメージ

区分1	保護的な配慮のある環境では日常生活は概ね出来ている。一般就労していたり、初めての場所でも単独で可能。
区分2	習慣化されたことは概ね出来るが、過度なストレスがかかる場合対処が困難。外出は大きな駅でも単独で乗り換えが出来る。抑うつ症状や不眠等軽い精神症状がある。てんかん発作の頻度は少なく怪我也無い。自分から相談できる。
区分3	意思疎通は概ね可能。作業等のペースに乗ることができる。自発的な行動に困難がある。場にそぐわない行動がある。てんかん発作が多い。単独外出は可能。
区分4	意思疎通が困難。外出は介助が必要。自分の興味が優先する。固執や常同的な反復行為があり配慮が必要。パニックが時々ある。自発性が著しく乏しい。指示待ち。てんかん発作が頻回にあり怪我也が多い。自傷・暴力が頻繁に見られる。精神症状が重く、生活全般に全面支援が必要なことがある。
区分5	日常生活に支障をきたすような意思疎通の困難がある。問題行動・不潔行為・自傷・他害・突発的行動・強い固執・反復行動等が見られて常に配慮が必要。日常生活に支障をきたすような精神症状の再燃・悪化が見られる。
区分6	意思疎通がはかれない。激しい自傷・他害行動、不潔行為等がほぼ毎日見られる。